

造影CT検査の説明と注意点

今回実施するCT検査は、ヨード造影剤という薬剤を使用します。造影剤は静脈から注入し、全身の血管から血液が豊富な組織に分布し、腎臓から尿となって体外に排泄されます。その分布の仕方や排泄経路を画像にして病気の診断を行います。

造影剤には以下のような副作用が起こる場合がありますので、ご承知おきください

<造影剤の副作用>

軽度の副作用（発生頻度3～5%程度 100人につき3～5人程度）

吐き気・かゆみ・発疹・頭痛など特に治療を要しない事が多い

重度の副作用（発生頻度0.01%程度 1万人に1人程度）

血圧低下・呼吸困難・意識障害などにより治療が必要

非常に低い確率で死亡に至った例もあります（0.00025% 40万人に1人）

検査後数日たってから、発疹が起こる場合があります

<造影の注意点>

ビグアナイド系糖尿病薬を服用している場合は、原則数日間の休薬が必要です。

造影剤注入中は、身体があたたかくなる事があります。これは通常の反応で副作用ではありませんので、心配する必要はありません。

造影剤が血管外に漏れ、注射部位が腫れて痛みを伴う場合がありますが、時間とともに吸収されるので通常処置は必要ありません。（ただし、大量に漏れた場合は処置が必要となる場合があります）

当院では、検査時の副作用に対して万全な体制を整えて、検査を行っています。
もし検査中異常を感じたらためらわず直ぐにスタッフにおっしゃってください。

(お知らせ)

同意の意思、日時、場所、署名が記載された同意書の原本は、松山赤十字病院にて保管いたします。
同意書原本（写）が必要な際は、病院職員までお声掛けください。

造影CTの問診・同意書

ID		最新の体重	eGFR
氏名		kg	
検査予定	年 月 日 時 分		

問診・同意書の注意事項

問診日より3ヶ月が過ぎた場合、検査当日に変更が無いかを
確認し、確認欄に日付と確認者名を記入してください

確認日（ ） 当日確認者（ ）

※eGFRの値は、直近半年以内の検査結果のご記入をお願いします。

安全に検査を受けていただくために、以下の質問について正確にご記入いただきますようお願いいたします。
該当するものがあれば□にチェックしてください

- 今まで、造影剤を用いて検査を受けたことがありますか ☐ いいえ ☐ はい
- はいと答えた方、その時に副作用はありましたか ☐ いいえ ☐ はい
はいと答えた方、どんな副作用でしたか
☐ 発疹 ☐ かゆみ ☐ 吐き気 ☐ 嘔吐 ☐ 咽頭違和感 ☐ その他（ ）
- 以下の病気と言われたことがありますか ☐ いいえ ☐ はい
☐ 喘息 ☐ 甲状腺機能亢進症 ☐ アレルギー（ ）
- 糖尿病薬を内服していますか ☐ いいえ ☐ はい（薬剤名： ）
- 腎臓の働きが悪いといわれたことがありますか ☐ いいえ ☐ はい ☐ 透析中
- 現在、妊娠中または妊娠の可能性がありますか ☐ いいえ ☐ はい
- 以下の機器を使用していますか ☐ いいえ ☐ はい
☐ 植込み型除細動器 ☐ インスリンポンプ ☐ 持続グルコース測定器（リブレセンサー等）

松山赤十字病院院長殿

私は造影CT検査を受けるにあたり、検査の目的や注意事項について説明を受け納得しましたので、
造影CT検査を受けることに同意します。

承諾日： 年 月 日

患者氏名

署名

代理人氏名（続柄）

署名

（続柄 ）

ビグアナイド系糖尿病薬の内服 ☐ 無 ☐ 休薬についての説明済み

上記2～7の問診において□いいえ以外にチェックがあり検査を行う場合は、必ず検査OKにチェックしてください

☐ 検査OK

確認日： 年 月 日

（医療機関名）

（医師名）

医療被ばくに関する説明書

X線CT検査

<X線CT検査について>

X線を使用して身体の断面像を撮影し、病気の診断を行う検査です。

検査時間は撮像部位や病気の種類によって異なります。検査室への入室から退室までは約10～20分程度ですが、実際に放射線を照射している時間は数十秒です。

病状に応じて造影剤を使用する場合や、追加の検査あるいは繰り返し検査をする場合があります。

<検査の必要性について>

X線CT検査では放射線を用いるため放射線による被ばくを伴います。

従って、検査の必要性が被ばくのリスクを上回ると考えられる場合のみ検査を行います。

放射線のことが心配で検査を受けなかったために、病気や怪我の発見が遅れたり、治療のタイミングを逃すことは避けなければなりません。

放射線のことが心配な時は、担当医師とよく相談し納得したうえで検査を受けてください。

<線量の最適化について>

当院では、法令や関連学会のガイドラインをもとに最適な条件で検査を行い、放射線による被ばくを必要最小限にすることを実践しています。

<被ばく量（放射線の量）について>

通常のX線CT検査により受ける放射線の量は5～30ミリシーベルトですが、検査する部位や範囲、方法で異なります。一般的には、検査で受けた放射線の量が100ミリシーベルト未満であれば、放射線検査を受けた人も受けなかった人も発がん率や遺伝的な影響の差はないと言われています。

当院のX線CT検査で100ミリシーベルトを超える被ばくをすることはありません。また、定期的にX線CT検査をお勧めすることもあります。治療効果や病変の経過を観察することで最善の治療につなげるためです。複数回のX線CT検査を受けた場合でも、人体には放射線による影響に対する修復機能がありますので、放射線の影響が蓄積するわけではありません。

小児においては小児専用の撮像条件を用い、より一層の被ばく低減に努めています。

<ご不明な点について>

放射線検査に伴う被ばく量や影響について、詳しい説明をご希望の場合は診療科までご連絡ください。